

郷土を愛する心を育てる道德教育
—人物資料の作成とその活用—

目 次

I	テーマ設定の理由	107
II	研究の仮説	107
III	研究内容	107
1	郷土資料開発作成に当たっての配慮事項	107
2	開発出来る郷土資料の素材	108
3	郷土の人物資料の意義と効果的な指導	109
4	人物資料の資料過程の工夫	110
5	人物資料の指導作成の工夫と作成の実際	114
6	郷土の人物に関する意識調査	116
IV	授業の実践	119
1	主題名「郷土愛」	119
2	資料名「災害から人々を持った蔡温」	119
3	主題設定の理由	119
4	ねらい	119
5	資料の構造析図	120
6	指導過程	121
7	資料	123
8	授業の反省	124
V	研究のまとめ今後の課題	126
	《引用・参考文献》	

浦添市立仲西中学校教諭
前 富 里 幸 枝

郷土を愛する心を育てる道徳教育

—人物資料の作成とその活用—

浦添市立仲西中学校教諭 前富里 幸 枝

I テーマ設定の理由

生徒は、生まれてからわが家を中心にその土地で過ごし、さまざまな経験を通して成長している。成長の課程の多くが、生まれ育った地域社会と切り離しては考えられない。

したがって、生徒が人間性豊かでたくましく、望ましい人間として成長するためには、まず身近な人々との触れ合いの中で郷土を愛することの意義を知り、人々や郷土を愛する心を持つことが出来るようになることが基本となる。その意味で、郷土を愛することは、生徒の人間性を培う基本であるといえよう。

郷土を愛する心は、郷土の良さを自覚することから芽生え、郷土をよりよく発展させようとする意欲へと高まる。この心は極めて自然の情ではあるが、道徳の内容と関連づけて指導することによって、より一層潜在的な力を蓄えることができよう。

中学校の時期は、自我に目覚め、自分の意志で物事を行おうとする自立の精神が強くなっていく。そのため、自分は自分だけで存在しているという自己中心的な狭い考え方になることもある。

郷土の人物に関する意識調査によると、読書の傾向として「郷土の伝記を読んだことがない」生徒が65%もあり、郷土の先人に対する意識が低い。しかし、「読んでみたい」生徒は53%もありその全員が主人公の業績を知り、学ぶことを期待している。

また、最近家族との対話や近隣との触れ合いも少なく、ともすれば郷土意識も薄くなりがちである。

このような傾向を考える時、自分が自分だけで存在しているのではなく、家族や社会に尽くした先人・高齢者によって生かされていることに気づかせたい。また、現在の郷土の発展の背景には、多くの先人の努力や貢献があり、その上に自分が存在することを自覚させたい。

したがって、郷土の人物資料を開発作成しその学習を通して、郷土を愛する意義を理解させ、郷土に対して深い愛情を持たせることにつながると考え、本テーマを設定した。

II 研究の仮説

郷土の人物資料を開発作成し、先人の生き方や考え方を学ばせることによって、郷土に対する理解と愛情を培うことができるであろう。

Ⅲ 研究内容

1 郷土資料開発作成に当たっての配慮事項

郷土資料は、特定の地域（郷土）を対象とする以上、その開発作成はそれぞれの地域の者が主体とならざるを得ない。したがって、その実際の開発作成に当たっては、指導資料が具備すべき要件や事項について十分配慮する必要がある。

(1) 配慮すべき事項

- ① 人物を取り上げる場合は、おうむね社会的評価が定まっている者を選ぶこと。この場合生存者はできるだけ避けること。
- ② 特定の個人や団体、商品などの宣伝や非難とならないようにする。
- ③ 表記、表現を的切に行い、特に、方言を用いる場合には、標準語を期すなどの切な配慮をおこなう。
- ④ 取り上げる内容の時代考証は正しく行う。
- ⑤ 出典、出所は明示する。

(2) 具備すべき要件

- ① ねらいを達成するにふさわしい資料。
- ② 生徒の興味、発達段階に応じた資料。
- ③ ねらいとする道徳的価値があらわに出ていない資料。
- ④ 深く考えさせる資料。
- ⑤ 心の糧となる資料。
- ⑥ 中正な資料。
- ⑦ きれいごとにならない資料。
- ⑧ 生徒の生活につながる資料。
- ⑨ 時間内で扱える資料。

2 開発できる郷土資料の素材

道徳資料としての郷土資料を開発するとき、まず、どのような視点から素材を収集することができるかを検討しておく必要がある。また、資料化できる素材の内容や利用者の発達からどのような道徳的価値が指導できるかについて、十分な検討が必要である。

(1) 開発できる内容

- ① 郷土に生まれ育ち、郷土の発展に尽くした人物（先人）を内容としたもの。
- ② 郷土に伝わる伝説や民話を内容としたもの。
- ③ 郷土の文化や習慣など郷土への愛情や誇りを育てることを内容としたもの。
- ④ 郷土の自然を内容としたもの。
- ⑤ その他、ローカルニュース等を内容としたもの。

(2) 指導できる道徳的価値

- ① 郷土を愛することを直接の価値とするもの。
- ② 郷土を愛することを背景にしながら、間接的な価値とするもの。

したがって、郷土資料は、すべての資料が直接、間接に郷土を愛する心を育てることにつな

がるといえる。

また、郷土資料は、尊敬感謝・自然愛護などに集中しそうに思われるが、むしろ四つの内容項目のすべてにわたっていると考える方が良い資料開発といえる。

(3) 利用者の発達性から

望ましい資料であるためには、ねらいが明確な資料、内容・素材が適切な資料、発達段階に即した資料であることが必要である。したがって、生徒の発達に伴う特性を知り、適切な指導の工夫が必要である。

3 郷土の人物資料の意義と効果的な指導

(1) 人物資料の意義

郷土の人物資料の中での主人公の行為は、その根底に「郷土の発展のため、人々のため」という郷土愛の気持ちに支えられている。このような身近な先人のさまざまな生き方を通して、自らを振り返り、今までの自分が郷土に対してどのような態度をとっていたかを正面から見つめることで、生徒の道徳性を一段と高めることができる。

したがって、道徳の授業で、郷土の人物資料を通して意図的・計画的な学習をすることは「郷土と自分」の関係を見つめさせてくれる。そのことは、より強く郷土を意識し、より深く郷土を理解することにつながると考える。

(2) 人物資料の効果的な指導

① 道徳の時間における指導

道徳の時間においては郷土を愛する心に関連ある道徳的価値をねらいとし、さらに郷土にかかわる適切な資料を用い、感動を大切にしながら多様な人間の生き方や物の見方に触れさせ、郷土を愛する心に照らして自己を見つめ直させることが大切である。

人物資料を使った資料では、資料に含まれている豊富な道徳的価値を指導内容と関連づけていくことが大切である。そして、より多くの人物資料を年間計画に位置づけることでいっそうの内面化を図り、主体的自覚へとつながる。したがって資料化も他方面から考えることが大切である。

② 教科との関連指導

教科における指導に当たっては、地域の学習（歴史・自然・文化）等によって、郷土に目を向けさせ、郷土を知り、郷土を愛する気持ちへと高めていくことができる。

また、各教科の学習を通して得た知識や能力の育成が、道徳の時間での理解を助けることにつながり、道徳的価値の主体的自覚となって、さらにはその実践力の育成・強化につながるといえる。

③ 特別活動との関連指導

特別活動においては、郷土の自然や文化・芸能・産業などに関する事項を積極的に取入れ、望ましい集団による実践活動を通して、郷土を愛し、郷土を発展させようとする気持ちを育てることが大切である。

郷土の人々との交流を深めることによって、郷土の文化や伝統を学びとり、祖先の労苦によって、現在の豊かな生活があることを感謝し、郷土の発展に貢献しようとする意欲を

育てたい。

ア 生徒活動との関連

生徒活動では生徒会活動・クラブ活動など、生徒の自発的・自治的活動を通して、実践的態度が育成されることが多い。したがって、先人の偉業等に関する事項を計画的、意図的に取入れ、先人理解に結びつくような内容を位置づける工夫をする。

イ 学校行事との関連

学校行事では、旅行的行事や勤労・生産的行事など、具体的な体験を通して、郷土に関する見聞を広めたり、先人の苦勞をしのぶ学習を工夫する。

④ 学校の創意を生かした教育活動との関連

地域の自然や文化に親しむ体験的な活動や飼育栽培・環境整備といった奉仕的な活動などを通し、また、地域に伝わる遊びや祭り・史跡めぐり、地域の産業の見学や清掃を体験させ、郷土を愛する心を育てたい。

⑤ 家庭・地域社会との関連指導

ア 連携の意義

生徒の道徳性を育成するためには、学校と家庭、地域社会が相互理解に務め、連携し協力し合わなければならない。特に「郷土を愛する心」の育成には、家庭・地域社会の果たす役割は大きい。その意味でも指導の連携は不可欠だといえる。

イ 連携の方法

- ・授業参観を設定し、相互理解を図る。
- ・学級だより・各種通信の発行で、学校や教師の意図やねらいをしらせる。
- ・郷土の先人・自然や歴史・文化等につながる行事を計画する。
- ・学級PTA等で地域理解につながる行事を計画する。
- ・地域行事への積極的参加で連携を図る。

4 人物資料の指導過程の工夫

資料には、資料それぞれの持つ特質がある。資料を最大限に生かすためにもその特質をふまえた指導過程の工夫がなされなければならない。次に提示した指導過程は、読物資料の基本過程にもとずいた人物資料の指導過程及び発問の工夫である。

(1) 指導過程・発問の工夫

段階	役割	各段階における発問例	指導上の留意点
導入	資料への導入	<ul style="list-style-type: none"> ・主人公〇〇について知っていることがあるか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・導入の本来の役割は「ねらいとする価値への方向づけ」だが、人物資料では、絵TP等を用いた「資料への導入」（資料への解説・補説）の方が効果的になる。
展開	価値の追求・把握	<ul style="list-style-type: none"> ・資料のどこに心を打たれたか。 ・主人公はここでどんなことを考えただろうか。 ・主人公が～したのはどんな考えからだろうか。 ・主人公は～のときどんな気持ちになっただろうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・人物資料は範例資料としての扱いが多いしたがって、発問も主人公を一つの手本として、それを見習いたいという気持ちを起こさせるような組立をこころがける ・自我関与できる発問をし、生徒に現在の価値観を振り返らせる。そのためにも充分時間をかける。
	価値の主體的自覚	<ul style="list-style-type: none"> ・今日の学習から学んだことはどんなことか。 ・これからの生活で心がけたいことはどんなことか。 ・主人公と似たようなことをした人は他にはないか。 ・主人公と似たような経験はないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・中心資料から離れ「これまでの自分はどうか」「これからの自分はどうか」考えさせる。 ・価値の主體的自覚、いわゆる一般化を行う時間なので、発問の組立を念頭において構造化する。
終末	まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の感想をまとめて発表しよう。 ・心に受け止めながら説話をきこう 	<ul style="list-style-type: none"> ・時間の締めくくり・まとめをする時間なので、生徒の反応を期待した発問はほとんどない。 ・人物資料を扱った時の終末は説話が効率的、しかもできるだけ教師を語る（失敗談も含め）となおよい。 ・だめおしをせず余韻を残すようにする。

(2) 資料の活用類型と価値の一般化をはかる指導過程

導入	価値への 方向づけ	<div style="text-align: center;"> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; display: inline-block;">中心資料</div> (説話や伝記など) </div>
展	中心資料による 価値の追求把握 (みつめる)	<ul style="list-style-type: none"> ○共感資料としての活用 <ul style="list-style-type: none"> ・主人公は、何を考えているか。 ・主人公のこのときの気持ちはどうか。 ・主人公に「…」と言われたとき、相手はどんなことを思ったか。 ○批判資料としての活用 <ul style="list-style-type: none"> ・主人公の行為について、どう思うか。 ・主人公の考え方をどう思うか。 ・主人公のやったことをどう思うか。それはなぜか。 ○範例資料としての活用 <ul style="list-style-type: none"> ・うまくいった (いかなかった) 原因はなにか。 ・どんなことでこの主人公を手本にしたいと思うか。それはなぜか。 ○感動資料としての活用 <ul style="list-style-type: none"> ・もっとも心を動かされたところはどこか。それはなぜか。 ○理解資料としての活用 <ul style="list-style-type: none"> ・主人公は「…」した時どう思ったか。 ・主人公は「…」しながらどんな事を考えたか。
開	価値の一般化 (わかる)	<ul style="list-style-type: none"> ○能動的経験 <ul style="list-style-type: none"> ・今までに似たようなことをしたことはないか。 ○受動的経験 <ul style="list-style-type: none"> ・今までに似たようなことをされたことはないか。 ○対比的思考 <ul style="list-style-type: none"> ・友達や身の周りの人と自分を比べてみたらどうか。 ○自覚的促進 <ul style="list-style-type: none"> ・今日の勉強から、自分に取り入れてみたいことはどんなことか。
終末	まとめる (あためる)	<div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="border-left: 1px solid black; border-right: 1px solid black; padding: 0 10px; margin-right: 10px;"> 心 判 </div> <div style="margin-right: 10px;">情 断</div> <div style="margin-right: 10px;">→</div> <div>まとめる ・ 意欲を高める</div> </div>

(3) 人物資料の特質

① 内容的特質

- 場面の空間的広がりからくる視野の拡大がある。
- 生徒の想像の世界が広がる。
- 人間的要求や感情を抱擁する大きさがある。
- 常によりよい生き方をめざした質的な深さがある。
- 高い道徳的価値を含んでいる。

② 方法的特質

- 主人公の生き方と自分自身の生き方の対比を容易にさせてくれる。
- 主人公の行為・考え方が手本となり、生徒の生活の中に生かされていくことにつながる。
- 他人の意見に左右されることなく、自らの考えを発表しやすい。
- 生徒が深く考える条件を備えている。

(4) 活用による類型化の留意点

資料活用の類型化は、あくまで教師の意図で行い、できるだけ一つの類型にしぼって展開した方がよい。しかし、人物資料では、共感範例的な取り扱い、感動範例的な取扱いのように二つの類型を合わせて指導する場合もある。

(5) 資料提示の工夫

資料提示の方法として、プリントや録音による提示が多いが、人物資料では、紙芝居、スライド、OHPのTP、VTRなどを利用し視聴覚に訴えるのもよい。絵や映像による資料の提示は、時代背景や場面の状況の理解を容易にし効果的である。

※ 提示資料（TP・絵）

この資料は、事前学習で生徒が作成した蔡温の資料である。絵は、紙芝居やスライドにも利用することができ、効果的である。

絵 「蔡温」



道徳TP「蔡温」（工事の様子）



5 人物資料作成の工夫と作成の実際

人物資料は、他の素材をもとにして作成された資料に比べ、資料化までには多くの困難がある。人物の行為に基づくため、できるだけ正確な記述が要求される。また、価値内容の多様さ、生徒の発達性から考えた制約や限界もあるので資料化の工夫は重要である。

(1) 素材収集の基準

道徳的価値を含んだ素材

- ・ 生き方の手本となる人物を取り上げた素材であること。
- ・ 人物の考え方・行為に感銘し、感動や共感を呼ぶような素材であること。
- ・ 人物としての偉大さだけでなく、人間としての多様な生きざま（苦労弱さ、失敗等）を含んでいる素材であること。

多方面からの素材

- ・ 特定の領域だけの人物に限定せず、郷土の発展のために尽くした人物をより広い分野・領域から収集する。
- ・ 著名な人物だけでなく、無名（あまり知られていない）だが、優れた生き方、行為をした人物も努めて収集する。

(2) 人物資料としての条件

① 1時間の中で扱える資料

特に人物資料は、ややもすると長文になりがちだが、一単位の中で扱うので、資料をもとにして深める時間も考慮した適切な長さの資料であること。

② 読解に低抗のない資料

読解の指導ではないので、読みやすく、しかも理解しやすい内容の資料であること。

③ ねらいが明確な資料

他の素材で作成された資料と違い、人物資料は多くの価値を含んでいる。しかし、それらの価値をすべて均等に含んでいては、かえって、道徳の資料としてはふさわしくない。できるだけ焦点化されたねらいを含んだ資料であること。

④ 人物の年譜にならない資料

業績だけをたくさん書き綴ったものではなく、その人物の生き方の中で、道徳的価値を大きく含んだ部分がクロウズアップされ具体的にされた資料であること。

⑤ きれいごとばかりではなく、心の糧となる資料

主人公の偉大さや偉さを綴ったものではなく、人間としての弱さなど多様な生きざまが描かれ、生徒の興味・関心や大きな感動を呼び起こすような資料であること。

⑥ 挿絵、理解の補助のある資料

発達段階に応じた生徒の想像力を損なわないように、挿絵や年表など視覚に訴える様な資料を適切な量で配置した資料であること。

(3) 人物資料の留意点

① 原則として生存している人物は避ける

一般的に社会的評価が定まっている人物で生き方に大きな変化がないと思われる場合は例外だが、生存している人物は途中でどう変わるか予測しにくいので出来るだけ避ける。

② 政治的中立性を犯さない

伝記の中には、政治的以外、思想的偏向を犯してしまう危険性を含んでいるのも少なくないので、公教育の立場上中立性は厳しく守らなければならない。

③ 多くの人の意見・文献等を反映させる

資料に客観性を持たせる上において、特定の人の意見や特定の文献だけを参考にするのではなく、出来るだけ多くの人の意見、文献等を参考にしながら作成するよう心がける。

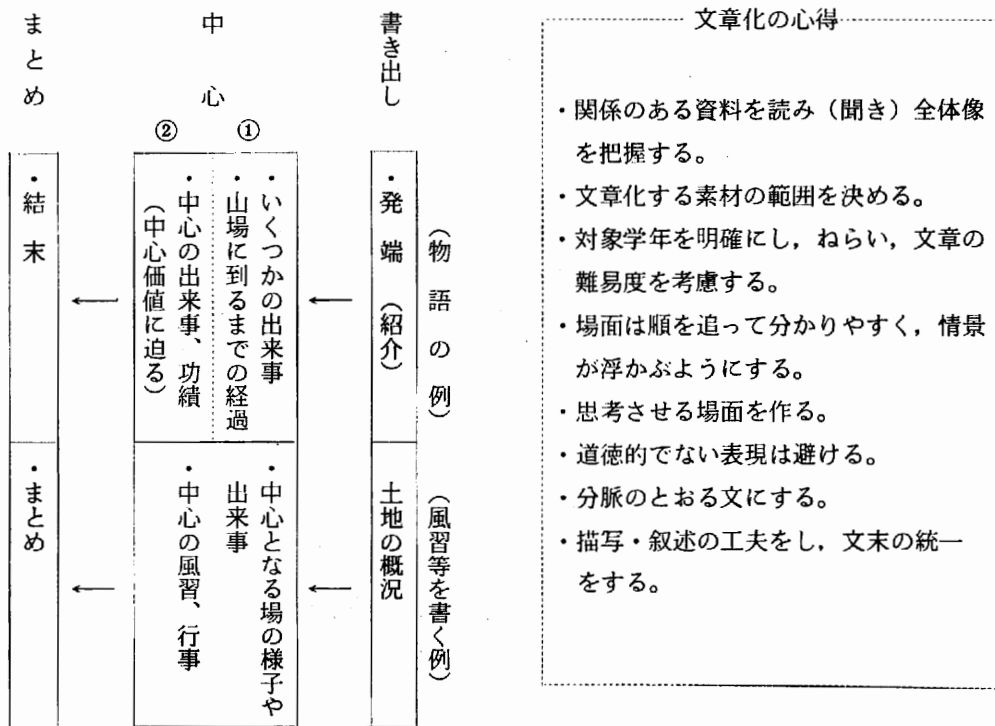
④ 特定の個人、企業等の営利に関わるものはさける

特定の個人・企業等の利益になるようなことは、反面、他者への不利益につながる恐れがあるので避けるようにする。

⑤ 著作権に配慮する

資料の作成においては、文章を書く人とその出典・原曲等に関わるそれぞれの権利が関係する為、あらかじめ著作権をはっきりしておく必要がある。

(4) 文章の構成と文章化の心得

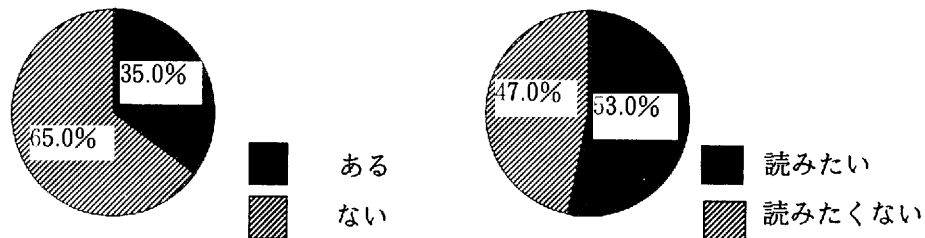


6 郷土の人物に関する意識調査

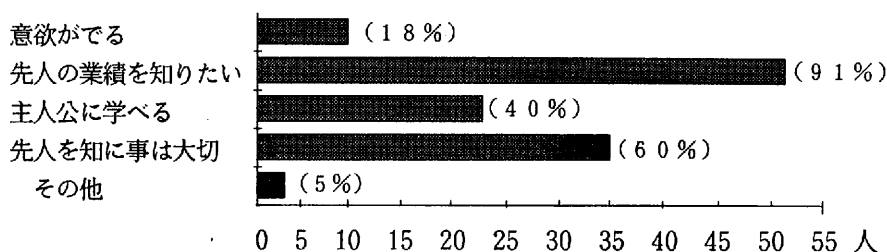
本校の1年生（109人）を対象に、郷土の人物（先人）についての読書傾向、伝記を読んだの受け取り方について調査した。以下はその主な項目の結果と考察である。

(1) 調査の結果

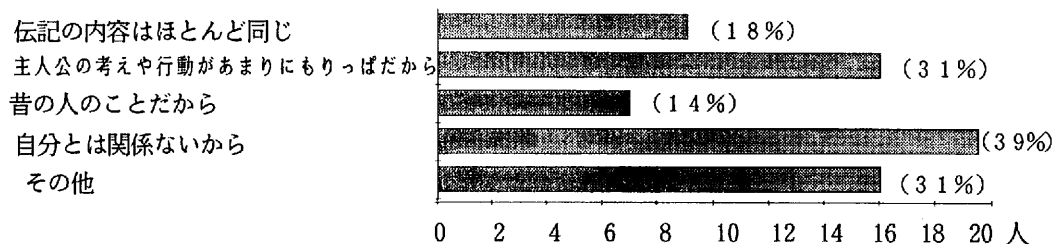
- ① 郷土の伝記を読んだことがありますか ② 郷土の伝記を読みたいと思いますか



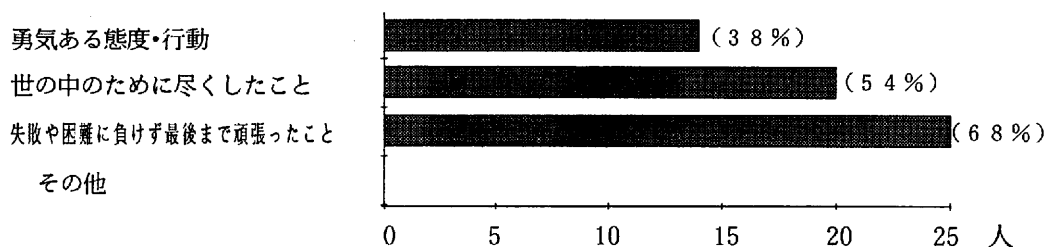
③ 「読みたい」と思う理由



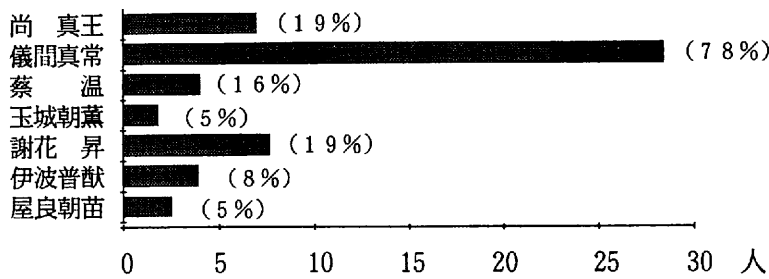
④ 「読みたくない」と思う理由



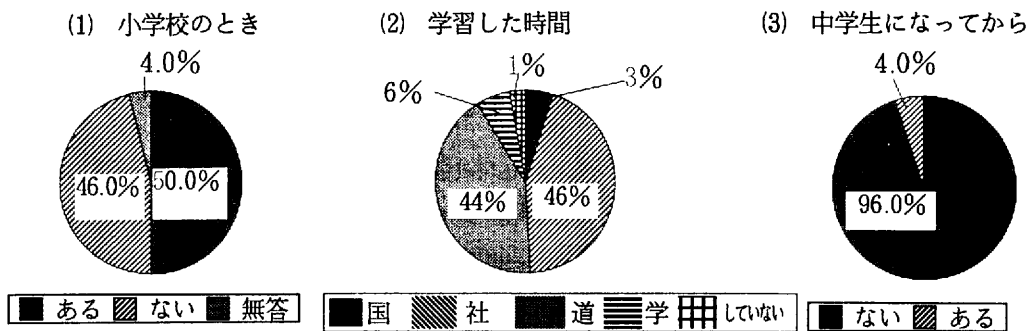
⑤ 伝記の主人公から見習いたいこと



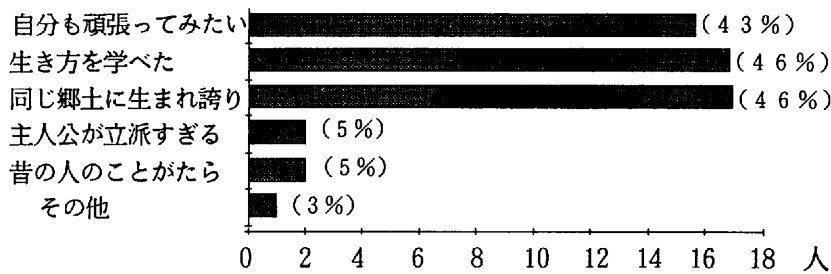
⑥ これまでに読んだ郷土の伝記



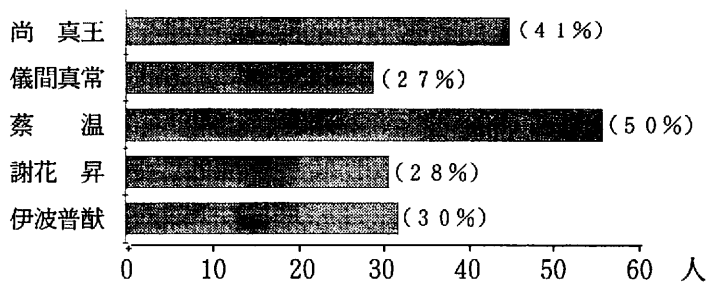
⑦ これまでに、郷土の先人を使った学習



⑧ その学習を通してどう思ったか



⑨ 読みたい郷土の伝記



(2) 調査の考察

① 読書の傾向

- ・郷土の伝記を読んだことがある（35%）
- ・読んだことがない（65%）
約3分の2の生徒が読んだ経験がないことになり、郷土の人物に対する意識が低い。
- ・読んでみたい生徒は（53%）で、その理由として「先人がどんなことをしたか知りたい」が91%と1番多く、「主人公を知ることは大切」が60%、「主人公に学ぶ」が40%と、ほとんどの生徒が、主人公の業績を知り、学ぶことを期待している。
- ・「読みたい郷土の伝記」では、蔡温が（50%）で一番高く、尚真王（41%）、伊波普猷（30%）、謝花昇（28%）、儀間真常（27%）の順である。
検証授業ではその中の蔡温を取り上げ実践した。生徒の実態を踏まえ、郷土の人物資料を開発作成し、実践したい。
- ・読みたくない生徒（47%）、その理由は、「自分とは関係ない」が39%、「主人公の考えや行動があまりにも立派すぎる」が31%である。伝記の主人公の行為・物の見方、考え方に対して批判的などらえ方をした経験のある生徒が多い。
それは、主人公の行為や考え方が現実とかけ離れ過ぎて、生徒との接点・共通点が見出しにくいことである。そのことから、これまでの画一的な指導法から資料活用の類型化による多角的な授業展開を工夫することが必要である。

② 伝記を読んだ後の受け止め方

- ・伝記の主人公から見習いたいことでは
「失敗や困難に負けず最後まで頑張る」（68%）
「世の中のために尽す」（54%）
「勇気ある行動」（38%）と主人公からなにかを見習いたいという生徒がほとんどである。
- ・郷土の先人を取り上げた学習は、小学校のときがほとんどで、そのうち社会科が最も多く、国語、道徳、学活の順になっている。中学生になってからは、学習経験がほとんどない。そのようなことから、「主人公に学びたい」という生徒の気持ちもとりいれ、郷土の人物資料を開発作成し実践していきたい。
- ・学習を通してどう思ったかでは
「自分も頑張りたい」、「生き方を学ぶ」、「誇りに思う」が最も多く、主人公に学ぶという生徒が8割もいる。反面、「主人公が立派すぎる」、「昔の人のことだから自分と関係ない」など、伝記の主人公の行為や考え方に対して批判的などらえ方をした生徒も2割ほどいる。
その事については(1)で述べたと同じく、授業の改善と工夫が必要である。

IV 授業の実践

1 主題名 「郷土愛」(第1学年 4-(7))

2 資料名 「災害から人々を守った 蔡温」

3 主題設定の理由

(1) ねらいとする価値について

人は地域社会の中で生活をし、その自然、風土、人々とのかかわりの中で成長している。したがって、生徒たちにとっても自分の住む町つまり身近な地域に対しては、他と異なる愛着はあるだろうが、地域や郷土を愛する意識にまでは高まっていない。

人間は一人で育ったものでもなければ、一人で生きているものでもない。家族や現在の地域社会を築いてくれた先人・高齢者の方々の努力の上に今の自分があり、地域郷土の中で、その一員として生きているという自覚が必要となる。

そこで、具体的に先人の努力の後をしり、郷土を見直し、郷土を愛する心やその発展に尽くす心が育つように指導したい。

(2) 生徒の実態について

中学一年の生徒は、自分の意志や判断で物事を行おうとする自律への意欲が高まってくる。そのため、他人の指示や影響を受けたくない、自分のことは自分ですという考えから、自分は他人の世話にはならない、なっていないという狭い考え方になることもある。

特に、最近の生徒たちの中には、現在の郷土の発展の背景に、数々の先人の努力・貢献があるということについてはあまり知らない。また、勉強と部活動に追われ、地域の行事に参加する機会も少なくなってきた様子であり、自分の町や郷土のことに関心をもっているという生徒はあまりない。

そこで、この時期に郷土の先人の苦労や努力を概観させながら、郷土の一員であることを自覚させ、先人に対する感謝や郷土愛を深めさせたいと考える。

(3) 資料について

本資料「災害から人々を守った 蔡温」は、18世紀の初頭に、政治の最高機関である三司官の位につき、数々の政策を実行し、多くの業績を残した蔡温の生き方について描かれている。蔡温は、常に農民の生活の安定を考え、多くの政策の中でも、特に治水事業に力を注ぐ。展開では、大雨の度に氾濫を繰り返してしまう羽地大川の改修工事の様子を中心場面に据えて、ねらいとする価値に迫りたい。

そして、その場面をもとに蔡温の業績や苦労等を理解させ、地域・郷土を見直し、歴史的なつながりの中で生きている自己をみつめなさい。

4 ねらい

先人の業績や努力の跡を知り、地域・郷土を見直し、郷土を愛する心やその発展に進んで尽くそうとする心情を育てる。

5 資料の構造分析図

すじの流れ	主人公の心の動き	基本発問
1 よた者とよばれていた蔡温が勉強するようになり、中国留学をする。	○ ばかにされたくやしきから、みんなに負けたくないとする気を出す。	○よたものと呼ばれていた蔡温が勉強するようになったのはなぜか。
2 三司官の位につき、農民と直接対話しながら各地の山・川を調査する。	○ 人々が安心して暮らせる社会になるよう、農業の保護・発展のための方策を考える。	○悪路を歩き、直接農民と対話しながら調査を進めた蔡温をどう思うか。
3 名護の羽地で、稲が川の氾濫で押し流された農民の訴えを聞く。	○ 言葉を失うほどの衝撃を受け、農民の苦労を無駄にしないためにはどうしたら良いかを真剣に考える。	○根こそぎ流されてしまった稲を見て、蔡温はどんな気持ちになったか。
4 改修工事に取り掛かる。		
5 堤防用の杭や土が流され、人々が大けがをするなど工事が難航する。	○ くじけそうになる人々を励まし、先頭にたって頑張った。	
6 羽地大川の大改修工事が完成した。	○ 強い精神力で羽地大川の大改修工事を完成した喜び。	
7 改修後の大川は豊かな水田地帯になった。		○蔡温が羽地大川の大改修工を成し遂げられたのはなぜか。
8 植樹も計画的に実施した。	○ 自然災害から、農作物をまもりたい。	
9 三司官の職を終えた蔡温は読書や執筆活動をつづけた	○ 学問や文化の向上にも力を入れ、国の発展を願う。	

6 指導過程

指導過程	役割	学習活動 (主な発問と予想される生徒の反応)	指導上の留意点
導入	資料への導入	(1) 蔡温についての簡単な解説を聞く。 <ul style="list-style-type: none"> ◦ どんな先人を知っているか。 ◦ 主人公蔡温について知っていることがあるか。 	<ul style="list-style-type: none"> ◦ 絵等を用いての、資料の解説や補説で「資料への導入」をし、主人公蔡温に関心を持たせる。
展開	価値の追求	(2) 資料「人々を災害から守った蔡温」を読んで話し合う。 ① 資料を聞いての感想を話す。 ② よた者と呼ばれていた蔡温が勉強するようになったのはなぜか。 <ul style="list-style-type: none"> ・ みんなにばかにされた。 ・ 遊んでもらえなかった。 ・ 見返してやりたい。 ③ 悪路を歩き、しかも直接農民と対話しながら調査を進めた蔡温をどう思うか。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 他人に任せずえらい。 ・ 農民の意見を聞くところがりっぱだと思う。 ④ 根こそぎ流されてしまった稲をみて、蔡温はどんな気持ちになったか。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 農民がかわいそう。 ・ 一日も早く、改修をしなければならぬ。 ・ 農民の苦勞が台無しだ。 	<ul style="list-style-type: none"> ◦ あまり深入りせず、何でも発表させて話しやすいような雰囲気をつくる。 ◦ 今の時代の生徒に共通するような、主人公の少年時代に共感させるとともに、主人公がやる気を出した要因について考えさせる。 ◦ 他人任せにすることなく、自ら山林や田畑をめぐる植林や改修工事の調査を進めた主人公の行為に共感させる。 ◦ ことばを失ってしまうほどの衝撃を受け、農民の苦勞を無駄にしないためにはどうすればよいかを真剣に考えている主人公について理解させる。

展 開 終 末	価 値 の 把 握	<p>⑤ 蔡温が、羽地大川の大改修工事を成し遂げられたのはなぜだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農民の苦勞を無駄にしたくない。 ・農民を災害から守りたい。 ・強い意志で工事に取りかかったから。 ・きちんと調査して進めたから ・沖縄の農業を祈っていたから ・呆然としていた農民が頭に残っていた。 	<ul style="list-style-type: none"> ◦ 目標を達成した喜びに共感させるとともに、蔡温の強い精神力に気づかせる。また、このことによって沖縄の農業が発展したことも、理解させる。
	価値の主体的自覚	<p>(3) いままでの生活を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◦ 今までの自分を振り返りながら、今日の勉強を通して気づいたことをまとめよう。 	<ul style="list-style-type: none"> ◦ 生徒のこれまでの生活における地域・郷土の先人に対する考え方を振り返らせ、郷土をよりよくすることの大切さを自覚させる。
	まとめ	<p>(4) 教師の説話を聞く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◦ 郷土を愛していこうとする心情が高まるような説話をし、身近なことから実践しようとする意欲へと結びつけるようにする。

災害から人々を守った蔡温さいおん

今から、およそ300年ほど前、琉球王国さつまはんは薩摩藩の島津氏に支配されていました。そのころ、苦しい立場に置かれた中で、王国の建て直しに努力し、第二黄金時代を築いた大政治家が出現しました。その人こそ蔡温さいおんなのです。

蔡温さいおんは、1682年「中山世譜ちゅうざんせいふ」という歴史の本を編集した学者、蔡鐸さいたくの子として久米村（那覇市）に生まれました。彼には、3つ年上の学問好きな兄もいました。恵まれた家庭環境の中にもかかわらず、少年時代の蔡温さいおんは、わんぱくで、大の勉強がらいでした。その上、乱暴者だったため、「よた者」とよばれるほど、両親を困らせました。

ところが、彼が16になった年の8月、彼の人生を一変させる事件が起きました。

「おう！そこにいるのはよた者の蔡温さいおんではないか。16にもなって読み書きもろくにできんようなやつは久米村の恥だ！」

と学問好きな久米村の青年たちにあざけられ、殴り合いのけんかになりました。

蔡温さいおんは、こんなにはかにされ、くやしい思いをしたのは生まれてはじめてでした。このようなことがあってから、蔡温さいおんは「よし、これからはみんなに負けないように勉強しよう。」と心を入れ替え、人が変わったように勉強するようになりました。

そして、27歳の時中国に留学し、実学じっかくという新しい学問を学んで2年後に帰国しました。

1728年、蔡温さいおん47歳の時、人々におかれて三司官の位につきました。当時、国王を中心とした組織は、国王のもとに摂政がおかれて、さらにそのもとに三司官がおかれていました。しかし、蔡温さいおんが三司官になった頃には摂政より三司官の方が重要な位になり、政治の最高機関でした。

蔡温さいおんは、その要職を25年間つとめ、数々の政策をおし進めました。当時は、大多数の人々が農民で、彼は、つねづねその人々が安心して暮らせる社会になることを願っていましたので、農業の発展のために必要な政策には、特に力を注ぎました。

蔡温さいおんは、中国で橋の改修や植林などの学問を学んだので、沖縄各地の山・川を直接見て回り、農業の保護・発展のための方策を考えました。交通事情の悪い山原（やんばる）では、大変な苦勞を伴いましたが、彼は、農民と直接対話しながら調査を進めていきました。

蔡温さいおんが名護の羽地にさしかかったころ、道ばたで呆然としている人々にであいました。農繁のうはんきをひかえ忙しいはずだというのに……。

「いったいどうしたというんだ。稲の収穫はもうすんだのかね。」

不思議に思って尋ねて見ると、人々は力なく応えました。

「いいえ、収穫する稲がすべてなくなってしまったのです。年貢米ねんぐまいも、食べていくための米もすべてなくなってしまいました。お役人様、どうか私たちを助けてください。」

農民の訴えを聞いて水田の方に急いだ蔡温さいおんは、我が目を疑いました。

——何ということだ。収穫前の稲が川の氾濫はんらんで根こそぎ押し流されているではないか。

国王、^{しょうけい}尚敬からも羽地大川は大雨のたびに^{はんらん}氾濫すると聞いていたが、彼は、あまりのひどさに言葉を失ってしまいました。

——一刻も早く大川の改修工事をしなければ——

^{さいおん}蔡温は、取り急ぎ首里城へ戻りました。

^{さいおん}蔡温は、工事のための準備を整えると一路羽地へと向いました。現地についた^{さいおん}蔡温一行は、まず^{はんらん}氾濫の原因を調査し、工事を進めるにあたって重要点をまとめると、さっそく、一世代の大土木工事に取掛かりました。

しかしながら、中国で工事のための学問を学んだとはいえ、提防用の杭や土が押し流され、工事の人々が大けがをするなどということが何度もおこりました。彼はそのたびにくじけそうになる人々を励まし、自らも先頭に立って実行しました。

そうしてついに、工事を始めてから10日目、約11万人の人々の協力で、無事に完了しました。大改修の後の大川は、大雨でも氾濫することなく、羽地地域は沖縄全体の米の約四割を生産するほど、豊かな水田地帯になりました。

^{さいおん}蔡温は、羽地大川の改修工事の他にも、那覇港の^{ちくこう}築港工事をを行うなど、各地の川に橋や提防を建設しました。

また、材木や薪の確保とともに山崩れを防ぎ、水源地帯を守るため計画的な植樹も実施しました。

彼はさらに、台風や干ばつなどの自然災害から農作物を守る対策として、アダンやモクマオウなどで防風林や防潮林の植樹を奨励し、道沿いには美しい琉球松を植えました。

彼が植林した樹木は、今帰仁や名護など、今でも各地に残っており多くの人々の生活に役立っています。

1754年4月、71歳で三司官の職を終えた^{さいおん}蔡温は、読書や執筆活動を続けました。

近世琉球の中で彼ほど多くのすぐれた書を残した人は他にいません。代表的な作品には、農業のやり方を書き示した^{のうむちょう}「農務帳」や、人々の生き方を説いた^{てきょうじょう}「御教条」などがあります。

学問や文化の向上にも力を入れた彼の時代には、組踊りを作った^{たまぐすくちょうくん}玉城朝薫などすぐれた文化人が数多くあられ、すばらしい文化の花が咲き誇りました。

^{さいおん}蔡温が遺した言葉

「ほめられたり、そしられたりするの人は人の世の常です。他人から批判されない者は、なんの役にもたちません。」

8 授業の反省

(1) 指導課程から

指導内容「郷土愛」を取り上げ、「先人の業績や努力の跡を知り、地域郷土を見直し、郷土を愛する心やその発展に進んで尽くそうとする心情を育てる。」ことをねらいとし、その達成に向け、自作資料で授業を実践した。指名のまずさ、発問のまずさから意図する展開ができなかった。

しかし、授業前の「読みたくない」生徒が（47%）だったのに対して、授業後はほとんどの生徒が良かった、もっと多くの先人を知りたいなど、先人や郷土に対する理解を深めたようである。

(2) 資料について

資料は、蔡温の生涯の中で、三司官時代の特に治水工事によって災害から人々を守った場面を中心に描いた自作資料を用いた。

郷土の人物に関する意識調査で「読みたい郷土の伝記」の中で一番多く興味・関心の高い人物であった。

(3) 資料の提示

録音教材の活用で導入し、人物関係図や年譜の提示で時代背景を押えた。また、事前の学習で生徒が作成した主人公や場面の絵は効果的であった。

(4) 授業の感想

- ・とても良かった。他の先人も知りたい。
- ・誇りに思った。
- ・今豊かに暮らしているのも先人のおかげだと思う。
- ・蔡温みたいに、みんなの役に立つような人になりたい。
- ・今までの自分は子どもの頃の蔡温に似ている、これからは頑張りたい。

V 研究のまとめと今後の課題

1 研究のまとめ

「郷土を愛する心を育てる道徳教育」をテーマに、人物資料の作成とその活用で、郷土の先人を辿り、その生き方を通してテーマに迫った。

その間、多くの文献や資料に接し、理解を深めることができ、これまでの道徳教育に対する認識を新たにした。この研究を通して、今後は新たな気持ちで心豊かに、そしてゆとりのある実践活動につなげていけるものと信ずる。

- ・生徒の実態を把握する手段としての意識調査の方途を、明かにすることができた。
- ・人物資料の開発・作成の手順がわかり、自作資料を作成することができた。
- ・資料活用の類型化による多角的な資料の作成と、活用の方途を明らかにすることができた。
- ・機器の取り扱いには大変な抵抗があったが、研修期間でパソコン操作を習得し、ワープロ（一太郎）や表計算・グラフ（ハイパーキューブ）を使って調査の集計もすることができた。

2 今後の課題

- ・郷土資料の資料化とそれに伴う指導案の作成。
- ・指導過程と発問の工夫。

※ 最後になりましたが、本研究を通して浦添市立教育研究所の所長はじめ、教科指導員の盛島明秀先生や関係各位に御指導・ご鞭撻頂いたことにお礼を申し述べ、貴研究所の益々の発展と先生方のご活躍をお祈り申し上げます。

尚、第8期生仲間とも知り合えて、多くのことを学べたことも併せて感謝申し上げます。

《主な参考・引用文献》

安沢順一朗他1名 偏	学習指導要領の展開	明治図書
安沢順一朗 偏	道徳の解説と展開	教育開発研究所
	中学校指導書・道徳偏	文部省
瀬戸 真 偏	郷土資料の開発と活用	明治図書
青木 孝頼 偏	道徳資料の活用類型	明治図書
勝部 真長他2名 偏	道徳教育の探求	東信堂
瀬戸 真 偏	これからの道徳教育	教育開発研究所